

銘柄米生産情報 高温対策特別号

～会津地方における水稻の高温対策～

高温障害対策を徹底して、高品質な1等米を生産しよう！

高温による品質低下

出穂後20日間の日平均気温が26℃以上になると、乳白粒、背白粒、基部未熟粒等の白未熟粒が多く発生し、整粒歩合が低下することにより、等級低下の原因となります。また、出穂後10日間の最高気温が高いと、胴割れの原因となり、品質低下につながります。

品質低下を避ける対策

1 登熟期間中の水管理

～稲体の温度を下げましょう～

- 水田に水をため続けると、夜間の温度が下がりにくくなります。出穂後は、飽水管理を行い、夜間の地温を下げましょう。
- 落水は、早めに行わず、なるべく出穂30日後まで、飽水管理を続けましょう。



飽水管理の目安

飽水管理

→浅く水を入れ、自然に足跡に水がたまる程度に水量が下がったら、また水を浅く入れる水管理方法。

2 出穂前の追肥

～葉色の維持に努めましょう～

- 出穂期以降の高温により稲体の活力が低下すると、白未熟粒の発生により品質が低下しますので、以下の条件に当てはまる場合は、出穂前の追肥（実肥）を行いましょう。
- 施用量は、基肥一発肥料体系であればチッソ成分で1kg/10a以内を目安としてください。
※葉色が濃い場合は不要です。判断に困った場合はお問い合わせください。

【追肥の条件（目安）】

- 出穂期～1ヶ月高温が予想される場合
 - ・基肥を控えめにしている
 - ・生育量が少ない
 - ・昨年度著しい秋落ちが見られた
 - ・葉色が低下している（コシヒカリでSPAD値32以下）

3 斑点米カメムシ類対策

～品質低下を防止しましょう～



斑点米カメムシ類の発生が多く、注意報が発表されています！

- 畦畔の草刈りは出穂10日前までに行います。それ以降の草刈りはカメムシを本田に追い込む可能性があるため、出穂間際～8月いっぱいの草刈りは控えましょう。
- 農薬による防除はラベルを確認して、適期・適切に防除しましょう。発生が多い場合は、追加防除を行きましょう。

4 適期刈取

～適期刈取で、品質を維持しましょう～

- 積算温度を確認して、刈り遅れによる品質低下を防ぎましょう。高温が続くと、例年の刈取時期よりも早く登熟が進みます。
- コンバイン、乾燥機等の整備は早めに行っておきましょう。

熱中症に注意しましょう

農作業は、こまめな水分補給や休憩をとりながら、保冷剤や冷たいタオルで体を冷やして、熱中症を予防しましょう！
熱中症警戒アラートを確認しましょう！

不明な点などは最寄りの普及部・普及所にお問い合わせください



農業振興普及部 : 0242-29-5306
喜多方農業普及所 : 0241-24-5744
会津坂下農業普及所 : 0242-83-2113

<令和6年度農薬危害防止運動展開中6/10～9/10>